

テーマ： 複合的な課題を持つ人に対する支援(住まいに関する事例)

【北部圏域】事例①

<事例テーマ>

経済的な問題、かつ社会資源の利用が限定的な方への支援について

<事例概要>

地域支援者の支援を得ながら地域で生活していた人。脳梗塞後のリハビリで入院中、本人は自宅退院を希望していたが、居住環境や家族の支援体制等の問題から、施設入居を検討することとなった。しかし、経済的な課題があり、介護保険施設への入居が困難であった。

<見出された地域課題>

- ・医療、介護関係者および地域支援者間での情報共有の場が必要。
- ・地域の助け合いのネットワークの構築。

【中部圏域】事例②

<事例テーマ>

身寄りのない高齢者の転居について

<事例概要>

独居で社宅に居住の高齢者。疾病等により、現在の住まいへの居住継続が難しく、転居が必要。しかし親族との関係性は希薄で身寄りがなく、緊急連絡先を依頼できる人がいない状況で公営住宅の申し込みおよび住宅の契約が困難であった。居住支援法人等のサービスを利用しながら転居支援をしている。

<見出された地域課題>

- ・身寄りのない高齢者や金銭的な余裕のない高齢者の住み替えのための支援に対する方策および制度の検討が必要。

共通の地域課題

【課題】

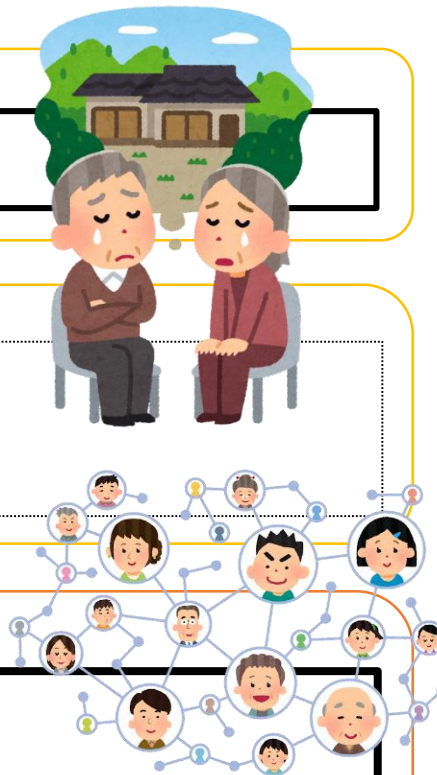
各分野の関係機関との連携強化。

地域課題に対する現状

- ・病院の退院時に、介護力や家の状況、地域の受け入れ状況等について、事前に情報共有できていないことが多い。
- ・地域の助け合いネットワークに地域差が大きい。
- ・退院時には、再度支援体制の構築が必要。
- ・金銭的、身体的課題、保証人がいない等により、高齢者の住み替えが困難である。

今後の方向性（行政、地域…）

- ・地域と病院との情報提供ができるようなシステムの構築
- ・日頃から高齢者を地域で支え合うための関係づくり（普段からの支え合い、病気になっても支え合える地域づくり）
- ・高齢者の居住確保に向けた地域の不動産関係会社等の住宅関係者への理解の醸成のための情報提供



第2回 地域ケア個別会議の開催結果

日時：令和5年7月20日（木）午後6時から7時30分まで 場所：すこやかセンター 講習室

テーマ：複合的な課題を持つ家族に対する支援

【南部圏域】事例①

<事例テーマ>

「介護力」「経済面」「住環境」の複数の課題をもつ高齢夫婦への支援

<事例概要>

夫婦二人暮らしで、本人は、体の動かしにくさがあるため、動作に介助が必要。妻は本人の要求に応えようと頑張るが、疾病や特性から能力的に限界がある。しかし、本人は妻が自分の思う通りに動けないことについて、暴言を吐くなどの状況がある。それぞれの支援者での情報共有等連携は図っていたが、別居の子と支援者がつながっていない状況があったため、子を含めた支援者会議を行ったところ、課題の共有や今後の支援の方向性について共有できた。

<見出された地域課題>

それぞれに課題のある家族員への支援については、支援者間の情報共有・検討の場が必要。

【中部圏域】事例②

<事例テーマ>

住まい・経済他多くの課題を抱える方への支援について

<事例概要>

独居で社宅に居住。悪性腫瘍で治療を行っていた。本人は介護保険料や税金の滞納があり、別居の家族は本人の年金を生活費の一部としていた。妻は精神疾患があり、支援者との会話の際も不安定な様子で、本人と子は関係性が不良であった。そのため、家族が暮らし家への復帰は難しい状況であった。

<見出された地域課題>

- ・家族間、家族の支援者間での連携が不十分であり、支援が円滑に進まない。
- ・家族それぞれの支援者で情報共有、支援の方向性の確認の場が必要

共通の地域課題

【課題】

それぞれに課題のある家族員への支援については、支援者間の情報共有、検討の場が必要。

地域課題に対する現状

【現状】

- ・経済的な課題として、税金や介護保険料の滞納等により、必要なサービスを受けられない人がいる。
- ・サービス担当者会議、支援者会議等、家族それぞれの支援者が情報共有できる場を活用していく必要がある。

今後の方向性（行政、地域…）

【今後の方向性】

- ・家族それぞれの支援者が情報や課題を共有し、同じ方向を向いて支援できるような場の活用。（圏域地域包括支援センター主催の地域ケア個別会議、サービス担当者会議、支援者会議等の活用）
- ・関係課との情報共有や早期から支援を行うための連携、協議を行う。（必要なサービスを利用、役割分担できるための情報連携等）

